

# 外国人住民と社会福祉に ついての大切な話

テーマ：保育・家族

石川鈴子

社会福祉法人幸樹会にじいろ保育園園長

アドラー心理学勇気づけリーダー

HSP・自己肯定感メンタルトレーナー

# 社会福祉法人幸樹会にじいろ保育園の これまでの外国人の受入れ状況

## 【 外国人園児の国籍 】

- ・アメリカ
- ・カザフスタン
- ・タイ
- ・ベトナム
- ・ペルー
- ・モンゴル

## 【 困ったこと 】

- ・日本語が読み書きができない
- ・日本語が話せない
- ・文化が違う(あたりまえが違う)
- ・母国に帰る理由で途中退園をする
- ・時間を守ってくれない
- ・お迎えが誰が来るのかわからない
- ・おたよりを読んでくれない

# 他園から転園してきたAくん(3歳児クラス)

- 【 入園日 】 令和元年9月1日
- 【 年齢 】 3歳11カ月
- 【 性別 】 男児
- 【 国籍 】 父親と母親が別国籍
- 【 日本語 】 ほんの少し日本語がわかる程度
- 【 母国語 】 母と話すときは母の母国語  
父と話すときは父の母国語を話す

# 転園してときAくんの状況

- 虫に興味があった
- 転園初日にクラス担任の頬をたたく
- 友達や職員にたたいたり、かみついたり、唾を吐く
- 身の回りのことを「できない」「やって」と言って、なんでも大人にやってもらおうとする
- 奇声を発する
- ささいなことで怒る
- 気持ちを切り替えるのに時間がかかる
- こだわりがある

Aくんに対し、どのようにかかわってきたかの前に・・・  
**どのように見える？**



○何歳くらい？

○どんな職業？

# にじいろ保育園で大切にしていること

- 自分のあたりまえは相手のあたりまえではない
- 違う ≠ 間違えてではない
- 人はそれぞれの経験や生育環境で身につけてきた価値観、ものの見方でそれぞれの体験や出来事を解釈して、判断し、行動しています  
たいていの人は自分のものの見方をまともだと思っていますが、他者からみると、理解できないこともあります

( 例えば、ある体験を「失敗」と解釈して、いつまでもくよくよ悩むという行動をとる人もいれば、「教訓」と解釈して、改善するという行動をとる人もいます )

対人支援をするうえで、

『あなたのそれもいいし、わたしのこれもいい!』

このことを前提で信頼関係を育んでいくことを大切にしています

# 傾聴・承認・質問

～信頼関係を築く方法～

- 保育のプロフェッショナルとして、まずは、こちらから相手を理解しようとする。  
相手の背景に思いをはせてみる。  
(例) 山といえば、  
日本人・・・富士山  
カナダ人・・・ロッキー山脈  
インド人・・・ヒマラヤ山脈
- 今より9倍傾聴し、3倍承認し、1つ質問をする。
- 目線をあわせて、おへそとおへそを向かい合わせる。
- 声のトーンを相手より少し高めにする。

# 問題を解決するときはスモールステップで実践していく

## ① 課題を明確にする

- ・ 友達や職員にたたいたり、かみついたり、唾を吐く不適切なかかわりを減らす

## ② 何のために、Aくんはそのような行動をしているのか?を考える(仮説をたてる・背景を考える)

- ・ 日本語を理解できていないため、今何をするのかがわからない、  
思いを伝えられない
- ・ 新しい環境で不安な気持ちが多い
- ・ 適切なかかわり方を知らない
- ・ 発達に問題がある

# ③そのために、できることを建設的に考える 『じゃ、どうする?』①

- 日本語を理解できていないため、今何をするのがわからない。  
自分の思いを伝えられない

- ・ 個別にゆっくり丁寧に声をかける
- ・ 絵カードを使って今何をする時間かを伝える



- 新しい環境で不安な気持ち大きい

- ・ 保育園が不安かもしれないので、『今日も保育園に来てくれてありがとう』を根気強く伝えた
- ・ 『おはよう』・『ありがとう』・『だいすき』等を普段Aくんが使っている母国語を調べて、こちらから声をかける
- ・ スキンシップ(ハグをする)
- ・ Aくんの好きな遊びを一緒に行う
- ・ 「シーシー」(本人が落ち着くために用いた言葉)と言いながら背中をさする
- ・ 職員全員に周知、協力をしてもらう
- ・ Aくんをひとりにしない
- ・ 保護者の方とコミュニケーションをとり、おうちとの連携をとる

# ③そのために、できることを建設的に考える 『じゃ、どうする?』②

## ○ 適切なかかわり方を知らない

- ・ 不適切な行動が出た場合は、行動を止め、まずはAくんの気持ちに寄り添う
- ・ 不適切な行動が出た場合は、その都度、適切な行動を伝える

## ○ 発達に問題があるかもしれない

- ・ 支援員に巡回相談をお願いする
- ・ 指導するときは単語とアクションで短く伝える (マル○・バツ×・やりません)
- ・ こだわりはできるかぎり本人の気持ちに寄り添う



# Aくんの現在（転園から1年後）

- 本人が好きな遊びを見つけた
- 職員との信頼関係ができ、園が安心の場であるとAくんが感じられると、園生活を楽しめるようになった
- 友達と一緒に遊べるようになった
- 自分の身の回りのことは自分でできるようになる

本日は子どもたちのために学んでくださりありがとうございます

## 子どもは宝物

宝物にかかわっているみなさまも宝物

いつもがんばってください  
ありがとうございます